

第1章 概 況

第1節 地 勢

本県の中央部よりやや北寄りに、中国山地が東西に走り、これによって、県土は南北に分かれ、南は瀬戸内海傾面を、北は日本海傾面を形成している。この背景部は、播但高原を形成し、東へ伸びて丹波高原に連なり、また、神戸市の北部を六甲地壘が東西に走り、明石海峡を経て淡路地壘の北部に続いている。淡路地壘は、島を縦断して、対岸の紀伊半島に伸び和泉山脈に接続している。南部は、播但高原から南に流れる諸河川などから播磨平野が、また、武庫川などからなる複合三角州は武庫平野となっていていずれも広大な産業、文化活動の舞台を提供している。これに対して、北部は、細長い谷底平野で自然に恵まれている。

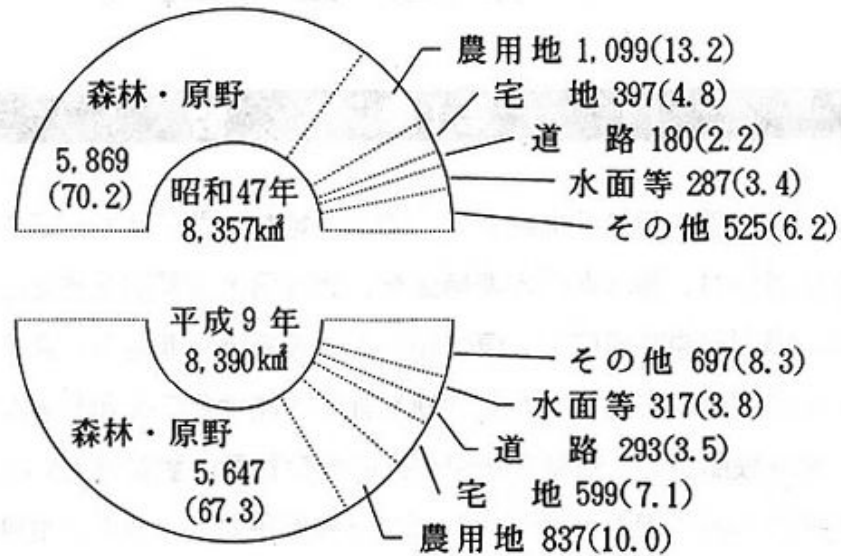
第2節 人 口

本県の人口は平成11年3月1日現在で547万6,808人であり、全国の人口の約4%を占めている。本県の人口は昭和30年代後半から十数年間にわたって、毎年5万人以上の増加が続いたが、この傾向は昭和50年から急速に鈍りはじめ、以降、兵庫県南部地震のあった平成7年を除いて、ほぼ2万人台の増加で推移している。

第3節 土地利用

土地利用についてみると、平成9年においては、宅地（住宅地、工業用地、その他の宅地）が7.1%を占め、森林・原野67.3%、農用地10.0%などとなっており、都市的利用に供される宅地及び道路の面積は県域の約10.6%に達している（第2-1-1図）。

第2-1-1図 土地利用の推移



- (注) 1. ()内は構成比(%)
 2. 土地利用の各地目区分は兵庫県国土利用計画(第3次)の定義による。

なお、都市計画法に基づく都市計画区域は、平成9年度末現在において、総面積約39万4千haであり、県域の約47%に及び、このうち、市街化区域は約6万9千ha、市街化調整区域は約18万haであり、未線引き区域は約14万5千haである。

また、農用地の転用は、平成9年には439haであり、前年に比べて12%減少している。過去の推移をみると、昭和44年から昭和48年にかけては年間1,000ha以上の農用地が転用されていたが、昭和50年以降おおむね400~600haで推移している。

第4節 社会・経済活動

第1 産業活動

県域における産業活動についてみると、まず、製造業については、平成9年の製造品出荷額等は15兆1,996億円であり、前年に比べて4.1%増加した。

農業については、平成9年度の農業粗生産額は1,856億2,900万円であり、前年に比べて5.3%減少した。

林業については、平成9年度末の民有林の面積は53万2,974haであり、前年に比

べて0.1%減少した。

水産業については、平成9年度の海面漁業の漁獲量は7万1,230tであり、前年に比べて12.5%減少した。

第2 水・エネルギー使用

県域における水使用の実態をみると、平成9年度の上水道の年間給水量は、7億4,706万 m^3 であり、前年度に比べて4.9%増加した。また、平成9年の年間工業用水使用量（30人以上の事業所）は512,862万 m^3 であり、前年に比べて7.4%増加した。

一方、平成9年度の県域における消費電力量をみると、2,701.2万MWhであり、前年度に比べて1.0%増加した。また、平成9年の県域における都市ガス消費量（消費熱量）をみると、18兆6,491億Kcalであり、前年に比べて9.9%増加した。

第3 交 通

鉄道利用についてみると、平成9年度は1,684,955千人（乗車数）であり、前年度に比べて3.6%減少した。

自動車保有台数（自動車登録台数）についてみると、平成10年度末現在3,476,128台（原付含む）であり、前年に比べて1.6%増加した。

自動車運輸（旅客自動車運輸）についてみると、平成9年度は379,858千人であり、前年に比べて4.1%減少した。

自動車運輸（トラック輸送トン数）についてみると、平成8年度は243,183千トンであり、前年度に比べて7.4%増加した。

フェリー（利用台数）についてみると、平成9年度は4,682,305台であり、前年度に比べて1.5%増加した。